

カザフスタンの人口変動

岡 奈津子

March 1999

# カザフスタンの人口変動

岡 奈津子

(アジア経済研究所)

はじめに

1. ソ連の人口センサス
  - 1-1. センサスの歴史
    - 1-1-1. 帝政ロシア末期とソ連初期のセンサス
    - 1-1-2. 1930年代の「極秘」センサス
    - 1-1-3. 戦後のセンサス
  - 1-2. センサスの定義
    - 1-2-1. 「実在」人口と「定住」人口
    - 1-2-2. 都市人口と農村人口
  - 1-3. センサス以外の人口統計
2. カザフスタンの人口変動
  - 2-1. センサスおよび統計集のデータ
    - 2-1-1. 領域の変化
    - 2-1-2. 全人口の値
  - 2-2. 人口変動の歴史
    - 2-2-1. 1910～30年代の人口喪失
    - 2-2-2. 戦後の人口移動
    - 2-2-3. 独立後の変化

おわりに

はじめに<sup>1</sup>

本稿の課題は、旧ソ連中央アジアの広大な国、カザフスタンの人口変動を分析することである。カザフスタンは18世紀から徐々にロシアの支配下に入り、1860年代にロシア帝国の領土となった。ソ連邦成立後、連邦を構成する一共和国となったが、1991年、その崩壊によって独立し現在に至っている<sup>2</sup>。そのため、カザフスタンの人口を分析する材料としては、ソ連時代に行われたセンサスが中心となる。なおカザフスタンでは1999年2月25日から3月4日にかけて、独立後初めてのセンサスが実施される予定である<sup>3</sup>。

旧ソ連のセンサスは、定義や実施方法などで国連の勧告とはかなり違っていた部分もある。また、その結果の公表は、国外はおろか国内においてもかなり制限されていた。しかしソ連邦崩壊前後、1930年代のセンサスなどそれまで極秘扱いであったり一部しか公開されていなかったデータが、専門家の手によってあらたに公表されている。

ソ連の人口については豊富な先行研究がある。カザフスタン一国をとりあげたものは非常に少ないが、中央アジア<sup>4</sup>の人口問題、とくに中央アジア諸民族の出生率の高さは多くの研究者の関心を集めてきた。なかでも、ムスリム人口の増加によるソ連全体の民族構成の変化と、それが労働力の供給、軍隊の構成などに与える影響が注目されていた。

旧ソ連の全人口の分析は本稿の対象外であるが、センサスの全体像は押さえておく必要がある。そこで本稿では、まずソ連時代のセンサスの歴史を振り返り、それを利用するさいに注意すべき点について述べる。次にカザフスタンについて、人口変動に大きな影響を与えた歴史的経緯に触れつつ、人口の変化とその特徴を明らかにしたい。

## 1. ソ連のセンサス

### 1-1. センサスの歴史

ソ連のセンサスは、実施当時の政治情勢に大きな影響を受けており、内容的にも発行形態もそれぞれ異なった特色をもっている。以下、フェシュバッハ (Feshbach, 1981)、島村 (1985: 157-164)

<sup>1</sup> 本稿の執筆にあたり、錦見浩司氏 (アジア経済研究所)、宇山智彦氏 (北海道大学)、Peter Sinnott氏 (コロンビア大学) に資料の入手等で協力を得た。ここに記し謝意を表したい。

<sup>2</sup> 現在の正式名称はカザフスタン共和国。ソ連時代の正式名称はカザフ・ソビエト社会主義共和国であるが、文中ではその略称として「カザフ共和国」を用いた。「ロシア共和国」、「ウズベク共和国」なども同様である。

<sup>3</sup> 当初は1月14日から調査を開始する計画であったが、1月10日に実施された大統領選挙との関係で延期された。Inside Central Asia, issue 258, January 18 - January 24, 1999: 4.

<sup>4</sup> ソ連時代の用語法では、中央アジア (Sredniaia Aziia) はウズベキスタン、キルギスタン、トルクメニスタン、タジキスタンを指し、カザフスタンは含まれていなかった。ソ連邦崩壊後は、カザフスタンを含めた5カ国を中央アジア (Tsentral'naia Aziia) と呼ぶことが定着している。

およびシュワルツ (Schwartz, 1986) を参考に、センサスの歴史を振り返ることとする。

### 1-1-1. 帝政ロシア末期とソ連初期のセンサス

ロシア帝国初の全国的な人口センサスは、1897年2月9日(旧暦1月28日)に実施された。この結果は1902年にまず3巻が出版され、専門家による議論・修正をへて1905年に89巻にまとめられている。このセンサスは、西欧で利用されていた科学的な統計手法を用い、トルストイやチェーホフなど知識人をも動員して大々的に実施された。しかし、広大なロシア帝国のすべてを網羅するのは困難で、一説によればシベリアでは住民の30%が調査からもれていたという。ロシア帝国は1915年に次のセンサス実施を計画していたが、これは第一次世界大戦の勃発によって実現しなかった。

ロシア革命後初のセンサスが行われたのは、1920年8月28日である<sup>5</sup>。しかし当時は国内戦が完全には終結しておらず、対ソ干渉戦争も終わりには近づいていたものの、また続いていた。そのため社会情勢は混乱を極め、読み書きのできる調査員が不足していたばかりか、紙にさえ事欠く状態であった。地域によっては調査がまったく行われず、全人口の3割近くがセンサスでカバーされなかった。このような事情から、得られたデータは不正確とされ、部分的にしか公表されなかった。また、1923年にもセンサスが実施されたが、これは都市に限定されている。

ソ連全体をカバーした初の本格的センサスは、1926年12月17日に実施され、その結果は1928~29年に56巻に分けて出版された(USSR, 1928-29)。このセンサスは、質問事項や分類基準などがよく整備されており、質的に充実しているだけでなく、量的にも集計結果のほとんどが公表されているため、模範的な調査であるとして高く評価されている。ただし、全人口は1%程度過大評価されているとする見方もある<sup>6</sup>。ちなみに、このセンサスはすべてロシア語・フランス語の二カ国語で書かれている。

### 1-1-2. 1930年代の「極秘」センサス

次のセンサスが行われたのは1937年1月6日であるが、このセンサスは実施されたことすらほとんど言及されてこなかった。長い間、その結果は廃棄されたと考えられていたが、公文書館に保存されていたことが判明し、ソ連邦崩壊直前の1991年、ソ連歴史研究所からその一部が出版されている(Institut istorii SSSR, 1991)。

ジロムスカヤら(Zhiromskaia, 1990; 1992; Zhiromskaia and Kiselev, 1991; Zhiromskaia, Kiselev and Poliakov, 1996)は、1937年と39年のセンサスの政治的背景と実施内容を分析している。それによれば、当時ソ連では、生活水準の向上は自動的に人口増をもたらすと考えられていた。したが

<sup>5</sup> のちにソ連を構成する地域が対象となったが、連邦成立は1922年12月であるから、厳密にはソ連初のセンサスではない。

<sup>6</sup> 国民経済中央計算局人口厚生課のクルマン副課長は、1926年のセンサスは、農村部で15~20日間にわたって実施されたため(都市では7日)、二重登録された人がいたと主張していた(Tsaplin, 1989: 177)。またジロムスカヤによれば、調査期間中に農村から都市に移動した人は、都市・農村で二重に登録された可能性がある(Zhiromskaia, 1990: 87)。

って人口は、資本主義に対する社会主義の優越性を示す重要な指標であるとされた。しかし実際には、1930年代はじめに飢饉、粛清と農業集団化によって多くの人口が失われていた。ツァプリンは、餓死者および強制収容所で亡くなった人の数は、1927～38年に790万人、国外へ逃れた人々は200万人であったと推定している（Tsaplin, 1989: 181）<sup>7</sup>。

1937年のセンサスの結果によれば、ソ連の人口は1億6200万人であった。しかしこれは、ゴスプラン（国家計画委員会）の予測1億8000万人、またクラヴァリ国民経済中央計算局長<sup>8</sup>によるより控えめな値、1億7000～7200万人をも大幅に下回っていた。そのため同年9月のソ連人民会議特別決定は、このセンサスの実施は不十分でありその結果には欠陥があるとし、公表を禁じた。またセンサスの実施者たちは「人口の実際の数字を歪曲」したとして、「人民の敵」や外国のスパイとして糾弾された。クラヴァリ局長とクヴィトキン・センサス・ビューロー長は処刑され、少なからぬ関係者が投獄された。

このように、1937年のセンサスが失敗とみなされたため、次のセンサスが39年1月17日にあらためて実施されることになった。1939年のセンサスの最重要課題は、スターリンの意に反しない全人口の値を得ることであった。政府は、37年のセンサスの結果を考慮して当初の推定値を下方修正し、39年の全人口を1億7000～7500万人と予測していた。しかし、この数字の「達成」も容易ではなかった。

調査漏れを防ぐことがもっとも重視され、「一人も抜かさないこと！」というスローガンの下、路上生活者が見つかりそうな場所はすべて調査するよう指示が出された。ソ連人民会議特別決定により、情報を提供しなかったり、あきらかにまちがった情報を提供した者は、裁判にかけられることとされた。また、わずかでも調査漏れが発見されると厳しく非難された。できるだけ「正確」な数字を出すようにという当局の圧力を感じて、水増し報告をする調査員も少なくなかった。

このような「努力」の結果、結果的には推定値の範囲内である1億7050万人が記録され、センサス結果は政府にも承認された。しかしこの数字については、当時の政治状況下においてできえ、ソ連の専門家のあいだで疑問視する声が上がっていた<sup>9</sup>。

このほか、囚人の所在が明らかになることを防ぐため、彼らの人数を他の地区に少しずつ「配分」するとともに、公式発表の数字以上の軍人の数を、各地域の人口に上乗せする措置がとられた。このように「再配置」された囚人と軍人は、全部で156万7300人分に上るという。また、統計上の都市人口を増加させ工業化の成功を誇示するため、一部の農村が都市に定義しなおされた。

1939年のセンサスの結果は39～40年にごく一部が発表されたほか、その後発行された統計年鑑やセンサス報告集に比較のため掲載されたが、いずれにせよ部分的な数字にすぎなかった。ソ連国民経済中央国立公文書館に眠っていたセンサスは、その一部が専門家の手によって編集され、

<sup>7</sup> アンドレーエフらは、1927～41年の犠牲者を約700万人と推定している（Andreev, Darskii and Khar'kova, 1993: 60-61）。

<sup>8</sup> 1919年に設置された中央統計局は、28年にゴスプラン付属の国民経済中央計算局となった。48年、ゴスプランから独立し中央統計局に戻され、ゴルバチョフ政権下の87年には国家統計委員会に改組されている（島村, 1985: 169-170; 『ロシア・ソ連を知る事典』平凡社, 1989: 384）。

<sup>9</sup> ジロムスカヤは独自に推計し、実際の人口は1億6760万人であったとしている（Zhiromskaia, 1992: 8）。

92年に出版されている (Poliakov, 1992)。

### 1-1-3. 戦後のセンサス

第二次世界大戦後初のセンサスは、1959年1月15日に行われた (USSR, 1962b)。1939年のセンサスで使用された方法を引き継いだ点も少なくないが、この年にセンサスの実施方法がほぼ確定され、70年、79年のセンサスも基本的に59年と同じ方針で行われている。調査員の質や、統計技術などにも改善がみられた。しかし公表された報告書は16巻 (15の連邦構成共和国についてそれぞれ一巻ずつと総括が一巻、カザフ共和国は第5巻)、全部で2800ページ余にすぎない。なお、第二次大戦後にソ連の領土が拡大しており、また戦争による人的被害が大きいいため、それまでのセンサスとの比較が困難になっている。

次のセンサスは当初1969年に実施が予定されていたが、技術的な理由で一年延期され、70年1月15日に行われた。このセンサスの大きな特徴は、一部の項目について、全人口の25%を対象としたサンプリング調査が初めて実施された点である。この結果は7巻の報告書にまとめられ、72~73年に出版されている (USSR, 1972-73)。巻数は59年のものより少ないが、全体の分量は3200ページ余で若干増えている。

その次のセンサスは、1979年1月17日に実施された。この年には、データの集計に初めて本格的にコンピュータが導入された。そのような技術的改善にもかかわらず、このセンサスの結果は、まとまったものとしては1980年と84年に一冊ずつ出版されたただけであったため (USSR, 1980; 1984)、西側の研究者のあいだでは、そのほとんどが公表されないのではないかという悲観的見方もあった。しかし、89年になってようやくさらなる公表が進み、最終的には10巻、5700ページ余が刊行された (USSR, 1989-90)。これには、ゴルバチョフの登場によるペレストロイカと、グラスノスチ (情報公開) 政策も影響しているとみられる。

1989年1月12日に実施されたセンサスは、ソ連最後のものとなった。報告集は全部で12巻、ページ数も1万2000を超えている (USSR, 1992)。旧ソ連諸国ではほとんどの国でまだセンサスが実施されていないため<sup>10</sup>、ソ連邦崩壊後の現在もなお、各国の人口を分析するさいにこのセンサスのデータがしばしば使用されている。

## 1-2. センサスの定義

### 1-2-1. 「実在」人口と「定住」人口

ソ連のセンサスでは、「実在」 (nalichnoe) 人口と「定住」 (postoianno) 人口の二種類が使用されている。これについては、アンダーソンとシルヴァー (Anderson and Silver, 1985) が詳しく分析している。やや長くなるがこれを引用しつつ、実在人口と定住人口について検討することとする。

<sup>10</sup> トルクメニスタンでは1995年にセンサスが実施されている。

まず実在人口とは、調査時に調査地域の住宅に実際にいる人々すべてを指す。調査地域に居住しており、調査時に不在だった人に関しては①住宅のある市町村内にいた場合（例えば、友人宅を訪問していたり、夜勤についていた場合）②住宅のある市町村外にいたが、帰宅途中であったか、調査を受けられない場所にいた場合（例えば、移動中であつたり、列車、船、飛行機等の乗務員が勤務中であつた場合）には、居住地の実在人口に入れられる。なお、実際に調査員がその時間にインタビューするわけではないが、センサスでは午前0時にどこにいたかが調査の対象とされている。

一方、定住人口とは、通常の居住地が調査地域にある人々のすべてを指す。調査時に不在の人（上記①、②を除く）は、住宅のある市町村の外にあり、それが6ヵ月未満の場合「一時的に不在」とみなされる。これらの人々は住宅のある地域の定住人口に含まれるとともに、調査時にいた場所で「一時的に居住」とみなされ、実在人口に加えられる。ただし、恒久的に居住地を移した人や学生は、移動した時期が6ヵ月未満であっても、新しい居住地の定住人口に数えられる。

実在人口と定住人口は、以下のように定義される。

「実在」人口＝「定住」人口－「一時的不在者」＋「一時的居住者」

「定住」人口＝「実在」人口－「一時的居住者」＋「一時的不在者」

定住地をソ連国内に持つが調査時に国外にいる人、また定住地を国外に持つが一時的にソ連国内に滞在している人を除き、すべてのソ連市民は、実在人口と定住人口の両方に登録されなければならない。旅行者など、外国に短期滞在（一ヵ月未満）している人は居住地の定住・実在人口に入れられるので<sup>11</sup>、原則的には、両者の差は小さいはずである。実際、ソ連邦全体では、この差が全人口に占める割合（実在人口－定住人口／定住人口）は、1959、70、79年にそれぞれ0.28%、0.12%、0.13%であった<sup>12</sup>。なお1989年のセンサスでは、この値は0.34%となっている。

1926年のセンサスでは、都市人口は実在・定住両方、農村人口は実在のみが調査された。37年

<sup>11</sup> 国外勤務の軍人は、徴兵された地域の実在人口に加えられる（アンダーソン・シルヴァー論文では言及されていないが、定住人口からは除外されるとみられる）。また、仕事や留学で一ヵ月以上国外にいる人とその家族は、定住人口から除外されるが、どこで実在人口に加えられるのかははっきりしない。

<sup>12</sup> ただし、アンダーソンとシルヴァーによれば、双方とも過小評価されている可能性がある。一時的不在者の情報は、家族や隣人、住宅の管理人や行政機関の役人など、第三者からしか得られない。他人がその人物について情報提供する場合は居住者名簿に頼ることになるが、この名簿は完全でなくしばしば幼児が登録されていない。また「一時的居住者」は、調査員に定住地の情報を提供するが、その住所が不完全であった場合、その人は定住地の定住人口からもれてしまう可能性がある。さらに移動中であつたり調査可能な地域にいなかったりして実在人口からもれた人は、その定住地でその人に関する情報が得られなかった場合、センサスからまったく消えてしまうことになる。また、不在の人物が「恒久的に」他の場所へ移動したかどうかは、家族や他人の客観的な判断にまかされる。また、答える本人が統計局の定義とは違った答え方をする可能性もある。このため、定住人口から完全にもれてしまつたり、あるいは二度登録されている可能性もある。

のセンサスでは実在人口のみ、39年には全人口について実在・定住の両方が調査されている (Zhiromskaia, 1990: 93)。ただし家族構成以外のすべての項目は実在人口で示してある<sup>13</sup>。

戦後のセンサスは、男女別、地域別、都市・農村別では実在・定住の二種類のデータを掲載しているが、その他の項目については実在、定住のうち一方のみを使っており、どの項目にどちらを使っているかはセンサスごとに異なっている。しかも、しばしばそれについての言及がない。たいていの場合、全人口と比べることによって特定できるが、比率しか出されていない場合や、クロス・タブュレーションなどの場合は判断しにくい。

1959年のセンサスでは、家族構成以外はすべて実在人口で示してある。70年のセンサスでは、年齢、教育水準、民族、言語が実在人口、家族構成、収入形態（被雇用者、個人副業従事者、学生、年金生活者など）、職業、移住に関するデータが定住人口である。一方、79年と89年のセンサスを調べてみると、すべての項目が定住人口によって示されている。

実在人口と定住人口の差は、ソ連全体では微々たるものであるが、都市・農村別、地域別に見ると、その差はより大きくなる。一般に、都市では実在人口が定住人口を、農村部では定住人口が実在人口を上回っており、カザフスタンでもそのような傾向が見られる（表4）。

また上述のように、項目によっては実在・定住人口のいずれかしか得られない場合があるため、年代の違うセンサスの比較には注意が必要である。例えば民族構成については、1959、70年は実在人口、79、89年は定住人口が使用されている。中央アジアでは全体として、地元民族は農村人口に占める割合が高く、ロシア人など外来の民族は都市人口に占める割合が高い傾向にある。そのため地元民族の人口は、59、70年のデータではやや少なめに、79、89年のデータではやや多めになっている可能性がある。ただしカザフスタンの場合は、都市・農村別の実在・定住人口の差が0.1~0.4%と小さいので、民族構成の時系列的比較にあまり問題はない。

一方、センサス以外の統計では通常、どちらが使われているのか言及されていない。時系列のデータは、実在人口と定住人口が混在している可能性もある。

#### 1-2-2. 都市人口と農村人口

ソ連のセンサスでは、都市人口の定義が時代と地域によって異なっている。そのため、都市・農村人口について、異なる時期や地域の比較を行うには注意が必要である。

ローランド (Rowland, 1986) によれば、1897年のセンサスでは、都市とみなされたのは行政上の中心地で、大きさや機能（全労働人口のうち非農業部門従事者が占める割合）は必ずしも関係がなかった。そのため大きな工業都市がこの定義からもれたり、逆に小さな農村が入れられたりした。

1926年のセンサスでは、都市人口は「都市型居住区 (gorodskoe poselenie)」の人口からなる。カザフスタンの場合、そのような居住区は全体で45あるが、そのうち「行政上、都市 (gorod)

<sup>13</sup> 1992年に刊行された39年のセンサス結果を見る限りでは、都市・農村別定住人口はソ連全体のデータしかなく、また男女別定住人口は掲載されていない (Poliakov, 1992: 90)。



と認められた」ものが26存在する<sup>14</sup>。比較的人口の多い居住区が都市に規定されているが、都市とそうでないものとの区分は必ずしも規模によるものではない (USSR, 1928-29 (vol. 8): 14)。また59年以降のセンサスでは、都市人口は「都市」と「都市型居住区 (poselok gorodskogo tipa)」の人口からなるが<sup>15</sup>、これらの区分にも一定の基準があるわけではない。

表3は、カザフスタンでセンサス上都市ないし農村と規定された居住区の規模を示したものである。人口3000人未満の都市型居住区、5000人未満の都市が存在する一方、5000人以上を抱える農村も存在しており、これらの定義は必ずしも規模によるものではないことがわかる。

### 1-3. センサス以外の人口統計

社会・経済統計を集めた「ソ連国民経済統計年鑑」は1955年に初めて出版され<sup>16</sup>、ソ連邦崩壊まで毎年出版された。出版年によって内容が若干異なるが、男女別、都市・農村別、地域別人口以外に、民族構成、教育水準、結婚、出生、死亡等に関するデータも掲載されている。

また「ソ連の人口」というシリーズの統計集も何冊か出されているが、出版年によって内容がかなり異なっている。「ソ連の人口1987」(USSR, 1988)は、1897年の帝政ロシア時代にさかのぼった推定値を出しており、利用価値が高い。

一方、カザフスタンのみを扱った統計集も発行されている。名称はそれぞれ若干異なるものの、カザフ共和国の「国民経済統計集」は、1957年、60年、63年、68年に続き、その後ほぼ毎年発行されていた (Heinemeir, 1984: 120-121)。独立後は「カザフスタン統計年鑑」のほか、「カザフスタン人口年鑑」(Republic of Kazakhstan, 1993, 1996a)などが発行されている。なお、センサスの結果は、少なくとも1989年のものはカザフスタンでも独自に発行されている (Kazakh SSR, 1990a; 1990b; Republic of Kazakhstan, 1991-92)。データソースはもちろん同じだが、州、市町村レベルの情報がより詳しい。

## 2. カザフスタンの人口変動

### 2-1. センサスおよび統計集のデータ

#### 2-1-1. 領域の変化

カザフスタンの国境はめまぐるしく変化している。ロシア革命後の1920年、ロシア共和国内に

<sup>14</sup> カザフ自治共和国全体の値からカラカルバク自治州の値を引いたもの。

<sup>15</sup> 1937年のセンサスでは「都市型居住区 (poselok gorodskogo tipa)」と「労働者居住区 (rabochii poselok)」という定義が使われているが、それらの人口の規模は公表されたセンサス結果からは明らかではない (Institut istorii, 1991: 69)。

<sup>16</sup> 1955年出版のものは「ソ連国民経済統計集」、それ以降は若干の例外を除き「ソ連国民経済統計年鑑」。

キルギス自治共和国<sup>17</sup>が創設され、1922年のソ連邦成立を経て、1925年にはカザフ自治共和国と名称を変更、1936年にカザフ共和国に昇格、15の連邦構成共和国の一つとなった。なお、この間のもっとも大きな領域変更は、カラカルバクスタンにかかわるものである。この地域はカラカルバク自治州として、1925年にカザフ自治共和国内に創設されたが、32年に自治共和国に昇格されロシア共和国へ直属することになり、さらに36年にはウズベク共和国へ帰属変更となった<sup>18</sup>。

各種統計集に載っているカザフスタンの領土面積は、以下のとおりである。データはその統計集の発行年初の値とみてよい。

- 「社会主義国家ソ連統計集」(USSR, 1936: 109) : 274.4万 km<sup>2</sup>
- 「ソ連国民経済統計集」(USSR, 1956: 22) : 276.6万 km<sup>2</sup>
- 「カザフ共和国国民経済統計集」(Kazakh SSR, 1957: 9) : 275.62万 km<sup>2</sup>
- 「1956年ソ連国民経済統計年鑑」(USSR, 1957: 22) : 275.6万 km<sup>2</sup>
- 「1958年ソ連国民経済統計年鑑」(USSR, 1959: 48) : 275.60万 km<sup>2</sup>
- 「1961年ソ連国民経済統計年鑑」(USSR, 1962a: 33) : 275.60万 km<sup>2</sup>
- 「1962年ソ連国民経済統計年鑑」(USSR, 1963: 42) : 271.52万 km<sup>2</sup>
- 「1963年ソ連国民経済統計年鑑」(USSR, 1965: 44) : 271.51万 km<sup>2</sup>
- 「1970年ソ連国民経済統計年鑑」(USSR, 1971: 31) : 271.51万 km<sup>2</sup>
- 「ソ連国民経済 1922-1972 記念統計年鑑」(USSR, 1972: 17) : 271.73万 km<sup>2</sup>
- 「カザフスタン人口年鑑」(Republic of Kazakhstan, 1993: 4) : 271.73万 km<sup>2</sup>
- 「1994年1月1日現在のカザフスタン共和国人口数」(Republic of Kazakhstan, 1994: 1): 272.49万 km<sup>2</sup>

一方、「カザフ共和国法令・カザフ共和国最高会議幹部会令集 1938-1981」(Akaev, Sipovich and Iarinova, 1981: 41-44)によれば、カザフスタンの領域に関する変更は以下のとおりである。

- ①1955年12月13日：ロシア共和国へ70.49 km<sup>2</sup>
- ②1956年1月12日：ウズベク共和国へ4990 km<sup>2</sup>（そのうち3290 km<sup>2</sup>は36-37年にウズベク共和国に一時的に引き渡していたもの）および南カザフスタン州の一部（面積は不明）
- ③1962年5月22日：ロシア共和国とのあいだで381ヘクタールの交換（領土面積の変更なし）
- ④1962年9月20日：ウズベク共和国へ4123 km<sup>2</sup>、ウズベク共和国から35 km<sup>2</sup>（全体では4088 km<sup>2</sup>の減少）
- ⑤1963年1月26日：ウズベク共和国へ3万6630 km<sup>2</sup>
- ⑥1965年9月16日：ロシア共和国へ18.33 km<sup>2</sup>
- ⑦1971年5月12日：ウズベク共和国シルダリア州の一部を譲渡される（面積は不明）

<sup>17</sup> 当時ロシアでは、誤ってカザフ人をキルギス人と、キルギス人をカラ・キルギス人と呼んでいた。  
<sup>18</sup> 現在の正式名称は、カラカルバクスタン共和国。名称上はもはや「自治共和国」ではないが、現在もウズベキスタン共和国の一部である。

1936年および56年出版の統計集によれば、カザフスタンの面積はこの間に2.2万km<sup>2</sup>増加している。一方法令集によれば、この時期には面積はほぼ不変であるか(②の決定が56年出版の統計集に反映されていない場合)、むしろ減少しているはずである。このような不一致の理由はこれらの情報だけではわからないが、法令集がカバーしていない36~37年に何らかの変更が行われた可能性もある。

また統計集によれば、1962~63年に4.08万km<sup>2</sup>減少している。この間の変化を法令集から計算すると、④と⑤(⑤の変化は63年出版の統計集に反映されていると仮定する)の変化により、4.0718万km<sup>2</sup>の減少となり、統計集とほぼ一致する。71~72年の間に0.22万km<sup>2</sup>増加しているのは⑦が関係している可能性がある。

一方、統計集のうえでは1993年に271.73万km<sup>2</sup>であったものが94年には272.49万km<sup>2</sup>に増加しているが、情報ソースによっては、現在も前者の数字が使用されている場合もある<sup>19</sup>。95年、96年の発行のカザフスタン統計年鑑には、領土面積について「土地関係・土地開発国家委員会のデータによる」との但し書きがあるが、これは同委員会があらたに測定しなおしたことを示唆するものともとれる(Republic of Kazakhstan 1995: 6; 1996b: 6)<sup>20</sup>。したがって、70年代なかば以降は実際の領域は変わっていないとみられる。

なお本稿では触れないが、カザフスタン内部の行政区画も非常に頻繁に変更されている。そのため、州ごとの人口の時系列的比較はきわめて困難である。

## 2-1-2. 全人口の値

表1は、全人口の値を、年代の異なる様々な統計集から拾ったものである。1960年代を境に同じ年のデータが異なっているのは、その後の統計集では領域の変化に応じて、過去にさかのぼって調整がなされているためであると考えられる。

統計集によって最後の桁(1000人の単位)が微妙に違っているのは、合計を出すさいに、もとの数字を四捨五入した場合と(例えば、2.8の小数点以下を四捨五入すると3となる)、男女別や都市・農村別など、個別のデータを四捨五入したものを、合計を出すさいに単純に足した場合(1.4プラス1.4は2.8であるが、それぞれまず四捨五入して1プラス1とした場合、合計は3でなく2になる)とがあるためにおこる誤差であることが多い。

しかし、原因がわからないこともある。1968年の統計集と75年以降出版された統計集のデータを比べると、61年までは前者の、62年以降は後者の数字のほうが少なくなっている。また89年のセンサスと、独立後に出版された統計集のデータを比較すると、70年以降のデータについては後者のほうが少ない。何らかの理由で新たに推計しなおされたものと考えられるが、その理由

<sup>19</sup> カザフスタン大統領府ホームページ参照。http://www.president.kz

<sup>20</sup> CIS 国家間統計委員会の Elena Skobtsova 氏によれば、1992~95年にはこれら二つの数字が併用されていたが、96年以降は272.49万km<sup>2</sup>で統一されており、こちらの数字がより正確であるという。なおこの情報は錦見浩司氏から教えられた。

や根拠は統計集には書かれていない。

## 2-2. 人口変動の歴史

カザフスタンの人口の変化は、この地域の人々を翻弄してきた歴史を雄弁に語っている。カザフスタンの人口のおもな特徴としては①1910～30年代と90年代に人口減がおこっている②人口移動の影響が大きい③民族構成の変化が顕著であることなどが挙げられる。

もともとは、住民のほとんどがカザフ人遊牧民であったこの土地は、ロシア帝国の経済的・政治的進出とともに、ヨーロッパ系の農民や軍人、商人たちが続々と移民してくるようになった。多くのカザフ人がこれらの入植者によって土地を奪われたため、18世紀末には反ロシア暴動も起きている。さらに1860年代、ロシアが名実ともにカザフスタンを支配下におさめると、ロシアやウクライナなどから、さらに多くの農民がカザフスタンに入植してきた。しかしいずれにせよ革命前には、カザフスタンの人口の大多数はカザフ人によって占められていた。タチモフによれば、1897年に実施されたロシア帝国のセンサスでは、現在のカザフスタンの領域内で、カザフ人は全人口の82%を占めていたという (Tatimov, 1993: 132)。

### 2-2-1. 1910～30年代の人口喪失

1916年、中央アジア全域でロシアの植民地支配に抵抗する大反乱が起こった。さらに1917年にはロシア革命が勃発、その後も内戦が続き、たびかさなる戦闘とそれともなう社会的な大混乱によって、カザフスタンでも多くの人口が失われた。前出のタチモフによれば、直接的・間接的なカザフ人の人口喪失は、1916年の蜂起によるものが15万人、革命・内戦によるものが80万人であったという (Tatimov, 1993: 133)。

さらに1920年代末から30年代はじめにかけ、農業集団化と飢饉により、カザフスタンでは膨大な人口が失われている。長らく極秘であった1937年のセンサスを見ると、1926年に607.9万人であったカザフスタンの人口(26年の人口は37年の領域に合わせて調整済みであるとみられる)は、37年には482.0万人となっている(表1)。これらの数字が正しければ、11年間に125.9万人減少したことになる。

アブルホジンらは (Abylkhozhin, Kozybaev and Tatimov, 1989: 65-67; Kozybaev, Abylkhozhin and Aldazhumanov, 1992: 27-35)、カザフ人の人口に注目し、農業集団化と飢饉の影響を分析している。それによれば、1926年のセンサスではカザフ人の数が過小評価されており<sup>21</sup>、実際の人口はそれより6.7%多かったという。その数字から推計すると、30年代なかばまでにカザフ人人口は412万人に達していたと考えられる。ここから自然減を引き、39年のカザフ人人口(当時の領域で233

<sup>21</sup> アブルホジンらによれば、1926年のセンサスが実施されたころは、一夫多妻制が廃止されたばかりであったが、実際にはそれがまだ慣習として残されていた。そのため、後妻である若い女性たちはかなりの数が登録されなかった。また当時は、帝政ロシア政府による第一次世界大戦への強制的動員の記憶が強く残っており、若い男性は登録されることを望まなかった。さらに、遊牧民が広大な土地に

万人)と比較すると、飢餓・疫病の犠牲者は175万人、カザフ人全体の42%と推定される。さらに生存者のおよそ半分にのぼる103万人が他の共和国やソ連国外へ移住し、その後カザフスタンへ戻ったのは41.4万人にすぎない。ソ連国外ではモンゴル、アフガニスタン、イラン、トルコおよび中国へおよそ20万人が移住した。

一方、1930~40年代、農業集団化、粛清の嵐が吹き荒れた時代に、カザフスタンは「富農」や「敵国のスパイ」などの烙印を押された人々の流刑地とされた。また、朝鮮人(岡, 1998)、ドイツ人、ポーランド人、チェチェン人など、第二次世界大戦前夜および戦争中に対敵協力の罪をきせられ、故郷を追われた様々な民族の受入先ともなっている。一説には、集団化で失われたカザフ人人口を補うため、これらの人々の追放先の一つとしてカザフスタンが選ばれたともいわれている。

表7を見ると、1930年代にはカザフ人人口が激減する一方、ロシア人、朝鮮人、ポーランド人人口が増加、さらにその後ドイツ人が急増<sup>22</sup>、民族構成が大きく変化していることがわかる。なおウイグル人もカザフ人同様、人口が激減しているが、飢饉の犠牲者が出たほか、同民族が多数住む中国領内などへ移住した者が多かったとみられる。

次に人口に大きな影響を与えたのは、第二次世界大戦である。ソ連全体では、2500万人以上の人々が犠牲になったとされる(Rowland, 1997: 1)。絶対数が減少した地域もあったソ連ヨーロッパ部に比べると、カザフスタンが受けたダメージは相対的には少なかったといえる<sup>23</sup>。

表6を見ると、性比(女性100人に対する男性の数)は1959年に90.5と低く、とくに30歳以上の年齢階級における値が少ないが、これにも第二次世界大戦が影響しているものとみられる。しかし、この値は89年にも93.9であり回復していない。ちなみにソ連全体の性比は59年に81.8、89年に89.4とこれよりさらに低い。島村(1985: 90-101)は、ソ連における性比の低さの理由として、戦争の影響とならんで青壮年期の男子の死亡率の高さを挙げ、その上昇とアルコール消費量の増加との因果関係に注目している。

## 2-2-2. 戦後の人口移動

第二次世界大戦中、ソ連ヨーロッパ部が戦場となったため、カザフスタンやその他の中央アジア諸国では既存の工場が軍事上重要な役割を果たしたほか、ヨーロッパ部から多くの工場が疎開してきた。これを受けて戦中および戦後、工場労働者の流入が増大した。この影響は、とくにカラガンダ州など工業開発が進んだ地域の都市人口の増加にみられる(Rowland, 1997: 15-16)。

またフルシチョフ政権(1953~64年)は「処女地開拓」を大々的に行い、カザフスタン北部を穀倉地帯とする計画をたてた。それを実現するため、ソ連ヨーロッパ部から多くの人々がカザフスタン北部の農村部に移住してきた。ちなみに、現在のカザフスタンの首都アスタナ<sup>24</sup>は、かつて

分散して暮らしていることも人口の過小評価につながった。

<sup>22</sup> ドイツ人の強制移住は1941年に行われた(Kendirbaeva, 1997: 745)。

<sup>23</sup> タチモフは第二次世界大戦のカザフ人犠牲者を35万人と推定している(Tatimov, 1993: 133)

<sup>24</sup> 1997年12月にアルマトゥからアクモラに首都が移転され、98年5月にアクモラがアスタナと改称さ

ツェリノグラードと呼ばれ、この処女地開拓事業の中心地であった。再びタチモフによれば、これによって1950年代には95万4000人、60年代には56万6000人の人口流入があった(Tatimov, 1993: 136)。

このように1950～60年代、カザフスタンは多くの移民を受け入れたため、非カザフ人の割合はさらに増加し、この傾向は北部でとくに顕著であった。またこの時期には、他の共和国からの人口流入はカザフスタンからの人口流出をつねに上回っていた。しかし1960年代末から流出が増え、この現象は逆転した(表11)。

戦後のもう一つの大きな変化は、都市化の進行である。前述のように、ソ連における都市人口の定義にはあいまいな部分があるためその分析には注意を要するが、センサスの結果から大体の傾向をつかむことは可能であろう。それによれば、都市人口が全体に占める割合は1939年には27.8%であったが、59年に43.8%、70年には50.3%に達している(表2)。

またここで注目すべきは、民族ごとの違いである(表5)。とりわけ対照的なのは、カザフ人とロシア人である。ここに挙げた11民族のうち、ロシア人は朝鮮人に次いで二番目に都市化率が高い(1989年に77.5%)。一方カザフ人は、中央アジアの地元民族であるウズベク人、ウイグル人に続き、農村人口の割合が3番目に高い(1989年に61.6%)。ただし、これらの差は必ずしもヨーロッパ系民族とテュルク系民族とのあいだに現れているわけではない。ヨーロッパ系のなかでも、例えばドイツ人とポーランド人は農村人口が5割を超えており、またテュルク系のタートル人の都市化率は、ロシア人のそれとほぼ同じである。

### 2-2-3. 独立後の変化

カザフスタンでは1994年から人口が減少し続けている。94年と98年の人口<sup>25</sup>を比べると、約130万人のマイナスである。これには、独立後の経済的困難、社会的混乱にともなう出生率の低下、死亡率の上昇(表9)も関係しているが、もっとも大きな影響を及ぼしているのは、国外移住である(表11)。上述のようにこの現象は新しいものではないが、全人口の減少をもたらすほどではなかった。なかでも、ロシアとドイツにそれぞれ移住するロシア人、ドイツ人の流出が目立っている。彼らのようなヨーロッパ系住民は、工場の技術者など熟練労働者に占める割合が高かったため、その移住が経済全体に与える影響が憂慮されている。なお、このような非カザフ人の流出は、独立後の民族間関係の緊張や、カザフスタン政府による民族政策(言語法など、カザフ人の民族的利益を考慮した政策)が原因であるとの指摘もあるが、実際には経済的動機がより重要であるとみられる。

その一方で、独立後、カザフスタン政府は国外のカザフ人の「帰国」を奨励する政策をとっている。カザフスタンでは上述のように、農業集団化と飢饉を恐れ、多くの人々がソ連の他地域や

---

れた。アスタナとは、カザフ語で「首都」の意。

<sup>25</sup> カザフスタン統計局のホームページ(<http://www.asdc.kz/kazstat/index.html>)によれば、1998年初の人口は1564万1900人。一方、カザフスタン大統領府(注19参照)によれば、同じく98年初の人口は1567万2000人である。

国外へ移住した。政府はこれらの人々とその子孫を含む在外カザフ人にカザフスタン国籍を与え、積極的に受け入れている。それにともない 1991～96 年、旧ソ連以外ではモンゴルから 6.2 万人、イランから 4600 人、中国およびアフガニスタンからそれぞれ数百人のカザフ人が移住してきている<sup>26</sup> (International Organization for Migration, 1997: 61)。

そもそも、ロシア人よりもカザフ人のほうが出生率が高かったことに加え (表 10)、このような人口移動がおこったため、カザフスタンの民族構成は再び大きく変化している (表 8)。カザフスタンはソ連時代、連邦構成共和国のなかでは例外的に地元民族が過半数を割っていたが、カザフ人は 1995 年初頭で全人口の 46% を占め、1997 年にはすでに 51% に達しているとの推測もある (Heleniak, 1997: 370)。

おわりに

カザフスタンの人口は、これからどのように変化していくだろうか。現在は減少しつづけているが、ヨーロッパ系住民の流出が底を打てば、人口は再び緩やかに増加するだろう。また、カザフスタンの二大民族であるカザフ人とロシア人についていえば、出生率が相対的に高く年齢構成が若いカザフ人の人口は、今後も増加するものとみられる。一方ロシア人は自然増加率がマイナスを記録しており、人口流出が止まったとしても、全人口に占める割合だけでなく絶対数も減少し続ける可能性がある。

今年予定されている人口センサスは、独立後の大きな変化を反映した、きわめて貴重な材料を提供してくれることになるだろう。

#### 参考文献

- Anderson, Barbara A. and Brian D. Silver. 1985. "Permanent' and 'Present' Populations in Soviet Statistics." *Soviet Studies*, vol. 37, no. 3: 386-402.
- Buckley, Cynthia. 1998. "Rural/urban Differentials in Demographic Processes: The Central Asian States." *Population Research and Policy Review*, vol. 17, no. 1: 71-89.
- Clem, Ralph S. 1986. "On the Use of Russian and Soviet Censuses for Research." In *Research Guide to the Russian and Soviet Censuses*, ed. Ralph S. Clem, 17-35. Ithaca: Cornell University Press.
- Dimairo, Alfred J. Jr. 1981. "Contemporary Soviet Population Problems." In *Soviet Population Policy: Conflicts and Constrains*, ed. Helen Desfosses, 16-43. New York: Pergamon Press.
- Esenova, Saulesh. 1996. "The Outflow of Minorities from the Post-Soviet State: The Case of Kazakhstan."

<sup>26</sup> 別の情報によると、1991～94 年にトルコから 1900 人がカザフスタンに移住している (Tishkov, 1996: 205)。

- Nationalities Papers*, vol. 24, no. 4: 691-707.
- Feshbach, Murray. 1981. "Development of the Soviet Census." In *Soviet Population Policy: Conflicts and Constrains*, 3-15.
- Heinemeir, Meredith M. 1984. *Bibliography of Regional Statistical Handbooks in the USSR. 3rd ed.* Washington, D. C.: US Bureau of the Census, Center for International Research.
- Heleniak, Tim. 1997. "The Changing Nationality Composition of the Central Asian and Transcaucasian States." *Post-Soviet Geography and Economics*, vol. 38, no. 6: 357-378.
- International Organization for Migration. 1997. *CIS Migration Report 1996*, Geneva: Technical Cooperation Centre for Europe and Central Asia, International Organization for Migration.
- Kaiser, Robert. 1994. "Ethnic Demography and Interstate Relations in Central Asia." In *National Identity and Ethnicity in Russia and the New States of Eurasia*, ed. Roman Szporluk, 230-265. Armonk: M.E.Shape.
- Kendirbaeva, Gulnar. 1997. "Migrations in Kazakhstan: Past and Present." *Nationalities Papers*, vol. 25, no. 4: 741-751.
- Lewis, Robert ed. 1992. *Geographic Perspectives on Soviet Central Asia*, New York: Routledge.
- Lewis, Robert A, Richard H. Rowland and Ralph S. Clem. 1976. *Nationality and Population Change in Russia and the USSR: An Evaluation of Census Data, 1897-1970*, New York: Praeger.
- Olcott, Martha Brill. 1995. *The Kazakhs. Second Edition*, Stanford: Hoover Institution Press.
- Rowland, Richard H. 1986. "Urbanization and Migration Data in Russian and Soviet Censuses." In *Research Guide to the Russian and Soviet Censuses*, 113-130.
- 1997. *Regional Population Trends in the Former USSR, 1939-51, and the Impact of World War II. The Carl Beck Papers*, no. 1207, Pittsburgh: Center for Russian and East European Studies, University of Pittsburgh.
- Schwartz, Lee. 1986. "A History of Russian and Soviet Censuses." In *Research Guide to the Russian and Soviet Censuses*, 48-69.
- Tolts, Mark. 1995. "The Modernization of Demographic Behaviour in the Muslim Republics of the Former USSR." In *Muslim Eurasia: Conflicting Legacies*, ed. Yaacov Ro'i, 231-253. London: FRANK CASS.
- Abylkhodzhin, Zh. B., M. K. Kozybaev and M. B. Tatimov. 1989. "Kazakhstanskaia tragediia." *Voprosy istorii*, no. 7: 53-71.
- Akaev, K. A., A. M. Sipovich and I. I. Iarinova. 1981. *Sbornik zakonov Kazakhskoi SSR i ukazov Prezidiuma Verkhovnogo Soveta Kazakhskoi SSR 1938-1981*, Alma-Ata: Kazakhstan.
- Andreev, E. M., L. E. Darskii and T. L. Khar'kova. 1993. *Naselenie Sovetskogo Soiuza. 1922-1991*. Moscow: Nauka.
- Institut istorii SSSR. 1991. *Vsesoiuznaia perepis' naseleniia 1937 g.: Kratkie itogi*, Moscow: Institut istorii



SSSR.

- Kazakh SSR. Statisticheskoe upravlenie Kazakhskoi SSR. 1957. *Narodnoe khoziaistvo Kazakhskoi SSR: Statisticheskii sbornik*, Alma-Ata: Kazakhskoe gosudarstvennoe izdatel'stvo.
- Tsentral'noe statisticheskoe upravlenie Kazakhskoi SSR (TsSU). 1968. *Narodnoe khoziaistvo Kazakhstana: Statisticheskii sbornik*, Alma-Ata: Kazakhstan.
- TsSU. 1975. *Narodnoe khoziaistvo Kazakhstana v 1973 g.: Statisticheskii sbornik*, Alma-Ata: Kazakhstan.
- TsSU. 1979. *Narodnoe khoziaistvo Kazakhstana v 1978 gody: Statisticheskii ezhegodnik*, Alma-Ata: Kazakhstan.
- TsSU. 1981. *Narodnoe khoziaistvo Kazakhstana v 1980 gody: Statisticheskii ezhegodnik*, Alma-Ata: Kazakhstan.
- TsSU. 1982. *Narodnoe khoziaistvo Kazakhstana v 1981 gody: Statisticheskii ezhegodnik*, Alma-Ata: Kazakhstan.
- TsSU. 1983. *Narodnoe khoziaistvo Kazakhstana v 1982 gody: Statisticheskii ezhegodnik*, Alma-Ata: Kazakhstan.
- TsSU. 1984. *Narodnoe khoziaistvo Kazakhstana v 1983 gody: Statisticheskii ezhegodnik*, Alma-Ata: Kazakhstan.
- TsSU. 1985. *Narodnoe khoziaistvo Kazakhstana v 1984 gody: Statisticheskii ezhegodnik*, Alma-Ata: Kazakhstan.
- TsSU. 1986. *Narodnoe khoziaistvo Kazakhstana v 1985 gody: Statisticheskii ezhegodnik*, Alma-Ata: Kazakhstan.
- Gosudarstvennyi komitet Kazakhskoi SSR po statistike. 1990a. *Itogi Vsesoiuznoi perepisi naseleniia 1989 g*, Alma-Ata: Respublikanskii informatsionno-izdatel'skii tsentr.
- Gosudarstvennyi komitet Kazakhskoi SSR po statistike. 1990b. *Kratkie itogi Vsesoiuznoi perepisi naseleniia 1989 po Kazakhskoi SSR: Statisticheskii sbornik*, Alma-Ata: Respublikanskii informatsionno-izdatel'skii tsentr.
- Kozybaev, M. K., Zh. B. Abylkhochin and K. S. Aldazhumanov. 1992. *Kollektivizatsiia v Kazakhstane: Tregediia krest'ianstva*, Alma-Ata: Institut istorii i etnologii.
- Republic of Kazakhstan. Gosudarstvennyi komitet Respubliki Kazakhstan po statistike i analizu. 1991-92. *Itogi Vsesoiuznoi perepisi naseleniia 1989 g*, Alma-Ata: Respublikanskii informatsionno-izdatel'skii tsentr.
- 1991. *Ob osnovnykh pokazateliakh Vsesoiuznykh perepisei naseleniia 1939, 1959, 1970, 1979 i 1989 godov*. Almaty: Kazinformtsentr.
- 1993. *Demograficheskii ezhegodnik Kazakhstana*, Almaty: Kazinformtsentr.
- 1994. *Chislennost' naseleniia Respubliki Kazakhstan po oblastiam, gorodam, rabochim poselkam i raionam na 1 ianvaria 1994 goda*, Almaty.

- 1995. *Statisticheskii ezhegodnik Kazakhstana za 1994 god*, Almaty.
  - 1996a. *Demograficheskii ezhegodnik Kazakhstana: Statisticheskii sbornik*, Almaty.
  - 1996b. *Statisticheskii ezhegodnik Kazakhstana za 1995 god*, Almaty.
  - 1996c. *Chislennost' postoiannogo i nalichnogo naseleniia Respubliki Kazakhstan po oblastiam, gorodam, raionam, raionnym tsentram i poselkam na 1.01.1996 goda*. Almaty.
- Poliakov, Iu. A. ed. 1992. *Vsesoiuznaia perepis' naseleniia 1939 goda: Osnovnye itogi*, Moscow: Nauka.
- Tishkov, V. A. ed. 1996. *Migratsii i novye diaspory v postsovetskikh gosudarstvakh*. Moscow: Institut etnologii i antropologii.
- Tsaplin, V. V. 1989. "Statistika zhertv stalinizma v 30-e gody." *Voprosy istorii*, no. 4: 175-181.
- Tatimov, M. 1993. "Regulirovanie migratsionnykh protsessov (Chapter V)." In *Mezhnatsional'nye otnosheniia v Kazakhstane: Teoriia i praktika regulirovaniia*, M. Suzhikov, M. Tatimov, A. Akhmedzhanov, M. Iskakova and M. Sarsenov, 132-148. Almaty: Gylm.
- USSR. Tsentral'noe statisticheskoe upravlenie SSSR (TsSU). 1928-29. *Vsesoiuznaia perepis' naseleniia 1926 goda*, Moscow: Izdanie TsSU Soiuza SSR.
- Tsentral'noe upravlenie narodnokhoziaistvennogo ucheta Gosplana SSSR. 1936. *SSSR Strana sotsializma: Statisticheskii sbornik*. Moscow: V/O Soiuzorguchet.
  - TsSU. 1956. *Narodnoe khoziaistvo SSSR: Statisticheskii sbornik*, Moscow: Gosudarstvennoe statisticheskoe izdatel'stvo.
  - TsSU. 1957. *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1956 g.: Statisticheskii ezhegodnik*, Moscow: Gosudarstvennoe statisticheskoe izdatel'stvo.
  - TsSU. 1959. *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1958 g.: Statisticheskii ezhegodnik*, Moscow: Gosudarstvennoe statisticheskoe izdatel'stvo.
  - TsSU. 1962a. *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1961 g.: Statisticheskii ezhegodnik*, Moscow: Gosudarstvennoe statisticheskoe izdatel'stvo.
  - TsSU. 1962b. *Itogi Vsesoiuznoi perepisi naseleniia 1959 goda*, Moscow: Gosudarstvennoe statisticheskoe izdatel'stvo.
  - TsSU. 1963. *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1962 g.: Statisticheskii ezhegodnik*, Moscow: Gosudarstvennoe statisticheskoe izdatel'stvo.
  - TsSU. 1965. *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1963 g.: Statisticheskii ezhegodnik*, Moscow: Statistika.
  - TsSU. 1971. *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1970 g.: Statisticheskii ezhegodnik*, Moscow: Statistika.
  - TsSU. 1972. *Narodnoe khoziaistvo SSSR 1922-1972: Iuvileinyi statisticheskii ezhegodnik*, Moscow: Statistika.
  - TsSU. 1972-73. *Itogi Vsesoiuznoi perepisi naseleniia 1970 goda*, Moscow: Statistika.
  - TsSU. 1980. *Naselenie SSSR: Po dannym Vsesoiuznoi perepisi naseleniia 1979 goda*, Moscow:

- Izdatel'stvo politicheskoi literatury.
- TsSU. 1984. *Chislennost' i sostav naseleniia SSSR: Po dannym Vsesoiuznoi perepisi naseleniia 1979 goda*, Moscow: Finansy i statistika.
  - Gosudarstvennyi komitet SSSR po statistike. 1988. *Naselenie SSSR 1987: Statisticheskii sbornik*, Moscow: Finansy i statistika.
  - Gosudarstvennyi komitet SSSR po statistike. 1989-90. *Itogi Vsesoiuznoi perepisi naseleniia 1979 goda: Statisticheskii sbornik*, Moscow: Informatsionno-izdatel'skii tsentr.
  - Gosudarstvennyi komitet SSSR po statistike. 1992. *Itogi Vsesoiuznoi perepisi naseleniia 1989 goda*, Mineapolis: East View Publications.
- Zhiromskaia, V. B. 1990. "Vsesoiuznye perepisi naseleniia 1926, 1937, 1939 godov: Istoriiia podgotovki i provedeniia." *Istoriiia SSSR*, No. 3: 84-104.
- 1992. "Vsesoiuznaia perepis' naseleniia 1939 g.: Istoriiia provedeniia, otsenka dostovernosti." In *Vsesoiuznaia perepis' naseleniia 1939 goda: Osnovnye itogi*, 4-12.
- Zhiromskaia, V. B. and I. N. Kiselev. 1991. "Repressirovannaia perepis'." In *Vsesoiuznaia perepis' naseleniia 1937 g.: Kratkie itogi*, 4-21.
- Zhiromskaia, V. B., I. N. Kiselev and Iu. A. Poliakov. 1996. *Polveka pod grifom "sekretno": Vsesoiuznaia perepis' naseleniia 1937 goda*, Moscow: Nauka.
- 岡 奈津子 1998 「ソ連における朝鮮人強制移住——ロシア極東から中央アジアへ——」 『岩波講座世界歴史 第24巻 解放の光と影』 岩波書店: 65-90.
- 島村史郎 1985 『ソ連の人口問題—21世紀ソ連予測への手がかり』 教育社。
- 1987 「ソ連における人口動向の分析と展望」 『ソ連研究』 No.4: 97-120.

統計資料

table1 全人口

(表1) 全人口

単位千人、※は年末、その他(センサス除く)は年初  
面積は千平方キロメートル

ア:1926年センサス

イ:「社会主義国ソ連統計集」(1936年刊)

ウ:1937年センサス

エ:1939年センサス

オ:「カザフ共和国国民経済統計集」(1957年刊)

カ:1959年センサス

キ:「カザフスタン国民経済統計集」(1968年刊)

ク:「1973年カザフスタン国民経済統計集」

ケ:「1978, 80~85年カザフスタン国民経済統計年鑑」

コ:「1987年ソ連の人口」

サ:1989年センサス

シ:「カザフスタン人口年鑑」(1993年刊)

ス:「1994,95年カザフスタン統計年鑑」、「カザフスタン人口年鑑」(1996年刊)、

「1996年1月1日現在カザフスタン定住・実在人口」

table1全人口

	ア	イ	ウ	エ		オ	カ		キ	ク	ケ
国土面積		2744				2756.2	2756.0		2715.1	2717.3	2717.3
	実在			実在	定住		実在	定住			
1897											
1913						5600	5600		5565		※5597
1920											※5400
1921											
1922											※5367
1926	6198		6079	6074		6030	6037				6025
1933		6797									
1936											※5748
1937			4820								
1938											
1939				6151	6134		6094		5990		6081
1940						6141			6054		6148
1941											6425
1950									6522	6592	
1951									6733		
1952									6987		
1953									7084		
1954									7252		
1955									7596		
1956									8174		
1957									8457		
1958									8741		
1959							9310	9298	9154	9295	9295
1960									9678	9755	
1961									10207		10236
1962							10934		10751		
1963									11266		
1964									11506		
1965									11844	11772	
1966									12124	12047	12047
1967									12406	12324	
1968										12588	
1969										12800	
1970										13009	13009
1971										13229	
1972										13467	
1973										13695	
1974										13928	
1975											
1976											14209
1977											14349
1978											14501
1979											14684
1980											14858
1981											15053
1982											15253
1983											15452

table1全人口

コ		サ		シ		ス		
2717.3		2717.3		2717.3		2724.9		
実在	定住	実在	定住	実在	定住	実在	定住	
4333								1897
※5597		※5597						1913
5400								1920
								1921
※5367								1922
6025								1926
								1936
								1937
								1938
6082		6082						1939
6148				6148		6148		1940
								1941
6592				6592		6592		1950
6813								1951
7079								1952
7186								1953
7355								1954
7701								1955
8283								1956
8568								1957
8876								1958
9295		9295						1959
9755				9755		9755		1960
10236								1961
10723								1962
11192								1963
11449								1964
11771								1965
12047								1966
12323								1967
12588								1968
12800								1969
13009	13009	13009	13009	13000		13000		1970
13211								1971
13430								1972
13637								1973
13847								1974
14063								1975
14209								1976
14349								1977
14501								1978
14684	14684	14685	14684					1979
14858				14832		14832		1980
15053				15005				1981
15253				15187				1982
15452				15372				1983

table1全人口

1984										15648
1985										15842
1986										16028
1987										
1988										
1989										
1990										
1991										
1992										
1993										
1994										
1995										
1996										
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	

(注1) 1926年のデータは、カラカルパク自治州の人口を除いたもの。

(注2) 「1987年ソ連の人口」には、1920年の人口が年末の値であるとの注意書きはない。

(出所) USSR, 1928-29 (vol. 8): 4; 1936: 109; 1962b: 11-13; 1988: 10, 62-63; Institut istorii SSSR, 1991: 28; Poliakov, 1992: 21, 90; Kazakh SSR, 1957: 9-10; 1968: 7-8; 1975: 4; 1979: 4-5; 1981: 4-5; 1982: 4-5; 1983: 4-5; 1984: 4-5; 1985: 4-5; 1986: 4-5; Republic of Kazakhstan, 1990b: 5-6, 10; 1993: 4-5, 45; 1995: 6, 18; 1996a: 4-5, 26; 1996b: 6, 14; 1996c: 3-4.



table1全人口

15648				15555				1984
15842				15739		15739	15696	1985
16028				15915				1986
16244	16244			16123				1987
				16333				1988
		16537	16464	16528				1989
				16690	16618	16690	16618	1990
				16793	16721	16793		1991
				16964	16892	16964		1992
				16987	16913	16986	16914	1993
						16942	16870	1994
						16679	16607	1995
						16544	16472	1996
コ		サ		シ		ス		

table2実在(都市農村・男女)

(表2)男女・都市農村別実在人口

人口(単位千人)

	1939年	1959年	1970年	1979年	1989年
男性	3162	4414	6263	7084	8013
女性	2920	4881	6746	7600	8524
全体	6082	9295	13009	14684	16537

構成比(%)

	1939年	1959年	1970年	1979年	1989年
男性	52.0	47.5	48.1	48.2	48.5
女性	48.0	52.5	51.9	51.8	51.5
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

人口(単位千人)

	1897年	1913年	1926年	1939年	1959年	1970年	1979年	1989年
都市	303	541	519	1690	4067	6538	7920	9466
農村	4030	5056	5506	4392	5228	6471	6764	7071
全体	4333	5597	6025	6082	9295	13009	14684	16537

構成比(%)

	1897年	1913年	1926年	1939年	1959年	1970年	1979年	1989年
都市	7.0	9.7	8.6	27.8	43.8	50.3	53.9	57.2
農村	93.0	90.3	91.4	72.2	56.2	49.7	46.1	42.8
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所)USSR, 1988: 10; Kazakh SSR, 1990b: 5-6.

table3都市・農村規模

(表3) 都市・農村人口を構成する居住区の規模別分布

## 都市人口を構成する居住区(都市および都市型居住区)の規模別分布

人口	1926年	1939年	1959年	1970年	1979年	1989年
1-2999	11	9	32	44	59	66
3,000-4,999	8	14	30	32	34	34
5,000-9,999	8	20	44	69	70	67
10,000-19,999	7	19	38	53	55	61
20,000-49,999	9	12	20	31	35	33
50,000-99,999	1	4	9	10	10	12
100,000-499,999	0	3	9	13	16	19
500,000-	0	0	0	2	2	2
全体	44	81	182	254	281	294

## うち都市

人口	1926年	1939年	1959年	1970年	1979年	1989年
1-2999	3	0	0	0	0	0
3,000-4,999	3	1	1	1	2	2
5,000-9,999	4	3	3	6	3	3
10,000-19,999	6	7	6	23	20	18
20,000-49,999	9	10	15	23	30	28
50,000-99,999	1	4	9	10	10	12
100,000-499,999	0	3	9	13	16	19
500,000-	0	0	0	2	2	2
全体	26	28	43	78	83	84

## 農村人口を構成する居住区の規模別分布

人口	1959年	1970年	1979年	1989年
1-100	21946	13142	8728	785
101-500	5713	4661	3934	3651
501-1,000	1757	2024	1733	1429
1,001-2,000	631	1225	1488	1624
2,001-3,000	165	273	308	363
3,001-5,000	102	145	181	186
5,001-	56	83	99	134
全体	30370	21553	16471	8172

(注)1926年の都市人口の定義は39年以後と若干異なる。本文1-2-2参照。

(出所) USSR, 1962b (vol. 5): 18-21; USSR, 1972-73 (vol. 1): 66-67, 172-173;  
USSR, 1989-90 (vol. 1): 117, 240-241; Republic of Kazakhstan, 1991-92 (vol.1): 28;  
USSR, 1992 (vol. 1, part 3): 210-211より筆者作成。

## table4実在・定住比較

(表4)男女・都市農村別の実在・定住人口比較

構成比(%)

		1959年	1970年	1979年	1989年
実在人口	都市	43.7	50.3	53.9	57.2
	農村	56.3	49.7	46.1	42.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0
定住人口	都市	43.3	50.1	53.5	57.1
	農村	56.7	49.9	46.5	42.9
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0

		1959年	1970年	1979年	1989年
実在人口	男性	47.5	48.1	48.2	48.5
	女性	52.5	51.9	51.8	51.5
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0
定住人口	男性	47.6	48.2	48.2	48.4
	女性	52.4	51.8	51.8	51.6
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所) USSR, 1962b (vol. 5): 13; Kazakh SSR, 1990b: 10 より筆者作成。

oka.table5.xls

(表5) 民族別都市・農村人口

構成比(%)

	都市			農村			全体		
	1970年	1979年	1989年	1970年	1979年	1989年	1970年	1979年	1989年
カザフ人	26.3	30.9	38.4	73.7	69.1	61.6	100.0	100.0	100.0
ロシア人	69.1	73.9	77.5	30.9	26.1	22.5	100.0	100.0	100.0
ウクライナ人	53.7	60.2	65.3	46.3	39.8	34.7	100.0	100.0	100.0
ドイツ人	40.4	44.9	49.1	59.6	55.1	50.9	100.0	100.0	100.0
タタール人	71.0	73.1	77.1	29.0	26.9	22.9	100.0	100.0	100.0
ウズベク人	40.4	36.2	37.3	59.6	63.8	62.7	100.0	100.0	100.0
ベラルーシ人	48.2	55.7	61.6	51.8	44.3	38.4	100.0	100.0	100.0
ウイグル人	24.5	28.0	34.2	75.5	72.0	65.8	100.0	100.0	100.0
朝鮮人	73.1	80.4	84.2	26.9	19.6	15.8	100.0	100.0	100.0
アゼルバイジャン人	30.2	33.2	43.6	69.8	66.8	56.4	100.0	100.0	100.0
ポーランド人	36.0	40.8	45.2	64.0	59.2	54.8	100.0	100.0	100.0
その他	55.3	54.7	55.1	44.7	45.3	44.9	100.0	100.0	100.0
全体	50.3	53.5	57.1	49.7	46.5	42.9	100.0	100.0	100.0

(出所) Republic of Kazakhstan, 1991-92 (vol. 2): 19-27 より筆者作成。

table6年齢構成

(表6)年齢構成

年齢階級	1959年							1970年						
	人口			構成比(%)			性比	人口			構成比(%)			性比
	男性	女性	全体	男性	女性	全体		男性	女性	全体	男性	女性	全体	
0~4	727328	700794	1428122	16.5	14.4	15.4	103.8	784153	761983	1546136	12.5	11.3	11.9	102.9
5~9	586430	570553	1156983	13.3	11.7	12.4	102.8	883919	857671	1741590	14.1	12.7	13.4	103.1
10~14	369904	352636	722540	8.4	7.2	7.8	104.9	811276	784312	1595588	12.9	11.6	12.3	103.4
15~19	398963	371266	770229	9.0	7.6	8.3	107.5	657019	621994	1279013	10.5	9.2	9.8	105.6
20~24	508289	482694	990983	11.5	9.9	10.7	105.3	480628	462491	943119	7.7	6.9	7.2	103.9
25~29	376635	359370	736005	8.5	7.4	7.9	104.8	380954	385310	766264	6.1	5.7	5.9	98.9
30~34	369403	421781	791184	8.4	8.6	8.5	87.6	588322	570263	1158585	9.4	8.5	8.9	103.2
35~39	181278	265345	446623	4.1	5.4	4.8	68.3	375923	359887	735810	6.0	5.3	5.7	104.5
40~44	166992	240537	407529	3.8	4.9	4.4	69.4	398476	449930	848406	6.4	6.7	6.5	88.6
45~49	177878	252718	430596	4.0	5.2	4.6	70.4	204013	295660	499673	3.3	4.4	3.8	69.0
50~54	153335	212726	366061	3.5	4.4	3.9	72.1	148107	222806	370913	2.4	3.3	2.9	66.5
55~59	110661	211260	321921	2.5	4.3	3.5	52.4	166074	280551	446625	2.7	4.2	3.4	59.2
60~64	96950	152403	249353	2.2	3.1	2.7	63.6	135762	230764	366526	2.2	3.4	2.8	58.8
65~69	78037	112648	190685	1.8	2.3	2.1	69.3	96277	193691	289968	1.5	2.9	2.2	49.7
70~74								65460	116436	181896	1.0	1.7	1.4	56.2
75~79								44339	71306	115645	0.7	1.1	0.9	62.2
80~	112337	173028	285365	2.5	3.5	3.1	64.9	39434	73171	112605	0.6	1.1	0.9	53.9
年齢不詳	279	283	562	0.0	0.0	0.0		5849	5061	10910	0.1	0.1	0.1	
全体	4414699	4880042	9294741	100.0	100.0	100.0	90.5	6265985	6743287	13009272	100.0	100.0	100.0	92.9

table6年齢構成

年齢階級	1979年							1989年						
	人口			構成比(%)			性比	人口			構成比(%)			性比
	男性	女性	全体	男性	女性	全体		男性	女性	全体	男性	女性	全体	
0~4	853662	832047	1685709	12.1	10.9	11.5	102.6	984732	956023	1940755	12.3	11.3	11.8	103.0
5~9	802051	781813	1583864	11.3	10.3	10.8	102.6	860291	839560	1699851	10.8	9.9	10.3	102.5
10~14	770345	756740	1527085	10.9	9.9	10.4	101.8	810773	795546	1606319	10.2	9.4	9.8	101.9
15~19	829765	784097	1613862	11.7	10.3	11.0	105.8	745746	699014	1444760	9.4	8.2	8.8	106.7
20~24	725034	705178	1430212	10.2	9.3	9.7	102.8	680585	665661	1346246	8.5	7.8	8.2	102.2
25~29	610933	611824	1222757	8.6	8.0	8.3	99.9	773165	770710	1543875	9.7	9.1	9.4	100.3
30~34	387417	390950	778367	5.5	5.1	5.3	99.1	680781	682914	1363695	8.5	8.0	8.3	99.7
35~39	410726	430838	841564	5.8	5.7	5.7	95.3	556535	573227	1129762	7.0	6.8	6.9	97.1
40~44	478687	484498	963185	6.8	6.4	6.6	98.8	341366	356071	697437	4.3	4.2	4.2	95.9
45~49	334940	347036	681976	4.7	4.6	4.6	96.5	357393	393795	751188	4.5	4.6	4.6	90.8
50~54	310477	404504	714981	4.4	5.3	4.9	76.8	399646	436796	836442	5.0	5.1	5.1	91.5
55~59	147325	254764	402089	2.1	3.3	2.7	57.8	269876	316263	586139	3.4	3.7	3.6	85.3
60~64	122374	220305	342679	1.7	2.9	2.3	55.5	234988	357476	592464	2.9	4.2	3.6	65.7
65~69	115940	225418	341358	1.6	3.0	2.3	51.4	101258	204569	305827	1.3	2.4	1.9	49.5
70~74	82637	169544	252181	1.2	2.2	1.7	48.7	71487	162589	234076	0.9	1.9	1.4	44.0
75~79	48366	116303	164669	0.7	1.5	1.1	41.6	55836	143158	198994	0.7	1.7	1.2	39.0
80~	42174	89517	131691	0.6	1.2	0.9	47.1	44324	131350	175674	0.6	1.5	1.1	33.7
年齢不詳	2784	3270	6054	0.0	0.0	0.0		5222	5738	10960	0.1	0.1	0.1	
全体	7075637	7608646	14684283	100.0	100.0	100.0	93.0	7974004	8490460	16464464	100.0	100.0	100.0	93.9

(注)性比は、女性100人あたりの男性の数。

(出所) USSR, 1988: 62-63; USSR, 1989-90 (vol. 2, part 1): 62-63; Kazakh SSR, 1990b: 11-12.

table7民族(26-89)

## (表7)民族構成(1926~89年)

## 人口

	1926年	1939年	1959年	1970年	1979年	1989年
カザフ人	3627612	2327625	2794966	4234166	5289349	6534616
ロシア人	1275055	2458687	3974229	5521917	5991205	6227549
ウクライナ人	860201	658319	762131	933461	897964	896240
ドイツ人	51094	92571	n.a.	858077	900207	957518
タタール人	79833	108127	191925	285689	312626	327982
ウズベク人	129409	120655	136570	216340	263295	332017
ベラルーシ人	25584	n.a.	107463	198275	181491	182601
ウイグル人	63432	35409	59840	120881	147943	185301
朝鮮人	42	96453	74019	81598	91984	103315
アゼルバイジャン人	20	n.a.	38362	57699	73345	90083
ポーランド人	3742	54809	53102	61445	61136	59956
その他	80332	198447	1117240	439178	473738	567286
全体	6196356	6151102	9309847	13008726	14684283	16464464

## 構成比(%)

	1926年	1939年	1959年	1970年	1979年	1989年
カザフ人	58.5	37.8	30.0	32.5	36.0	39.7
ロシア人	20.6	40.0	42.7	42.4	40.8	37.8
ウクライナ人	13.9	10.7	8.2	7.2	6.1	5.4
ドイツ人	0.8	1.5	n.a.	6.6	6.1	5.8
タタール人	1.3	1.8	2.1	2.2	2.1	2.0
ウズベク人	2.1	2.0	1.5	1.7	1.8	2.0
ベラルーシ人	0.4	n.a.	1.2	1.5	1.2	1.1
ウイグル人	1.0	0.6	0.6	0.9	1.0	1.1
朝鮮人	0.0	1.6	0.8	0.6	0.6	0.6
アゼルバイジャン人	0.0	n.a.	0.4	0.4	0.5	0.5
ポーランド人	0.1	0.9	0.6	0.5	0.4	0.4
その他	1.3	3.2	12.0	3.4	3.2	3.4
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(注1) 1926年は、当時のカザフ自治共和国の全体値からカラカルパク自治州の値を除いたもの。

39年、59年は当時の領域による。

(注2) 1939年のセンサスでは、26年のセンサスで個別に分類された民族のいくつかが文化的に近い民族に「統合」された。ここでは、39年以降の分類にしたがって26年の各民族の値を集計した。

また、1926年のアゼルバイジャン人の値はトルコ人(tiurki)のそれを用いた(Poliakov, 1992: 246-247)。なお、26年のセンサスで「不正確」な民族名の一つとされたウイグル人などについては、州別のデータではその内訳がなく「不正確」で一括されている。カラカルパク自治州の値を全体値から引くにあたって、この部分は個々の民族が特定できないため無視した。

(注4) 1939年のセンサスでベラルーシ人とアゼルバイジャン人が「その他」に加えられているのは、人口が相対的に少ないためであると考えられるが、59年のセンサスにドイツ人の人口が示されていないのは不自然である。Republic of Kazakhstan (1991:10)によれば、39年のベラルーシ人の人口は3万1000人、アゼルバイジャン人は1万2000人である。また USSR (1972-73, vol. 4: 13)によれば、59年のドイツ人人口は658,698人(1970年の領域に応じて値を調整済み)、全人口の7.1%である。

(出所) USSR, 1928-29 (vol. 8): 15-16, 43-44; 1962b (vol. 5): 162; Poliakov, 1992: 75-76; Republic of Kazakhstan, 1991-92 (vol. 2): 19-21より筆者作成。



table8民族(89-95)

(表8)民族構成(1989~95年)

## 人口

	1989年	1990年	1993年	1994年	1995年
カザフ人	6534616	6700363	7287635	7474478	7636205
ロシア人	6227549	6241930	6168740	6041586	5769711
ウクライナ人	896240	893780	875434	856665	820871
ドイツ人	957518	917485	696042	613820	507199
タタール人	327982	333412	335514	330584	319592
ウズベク人	332017	340532	364159	371662	378811
ベラルーシ人	182601	182814	181486	177615	171716
アゼルバイジャン人	90083	93008	100259	101950	102912
その他	915858	914989	904484	902002	900074
全体	16464464	16618313	16913753	16870362	16607091

## 構成比(%)

	1989年	1990年	1993年	1994年	1995年
カザフ人	39.7	40.3	43.1	44.3	46.0
ロシア人	37.8	37.6	36.5	35.8	34.7
ウクライナ人	5.4	5.4	5.2	5.1	4.9
ドイツ人	5.8	5.5	4.1	3.6	3.1
タタール人	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9
ウズベク人	2.0	2.0	2.2	2.2	2.3
ベラルーシ人	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0
アゼルバイジャン人	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6
その他	5.6	5.5	5.3	5.3	5.4
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(注)1989年のセンサスでは、ウイグル人はベラルーシ人より若干多く、また朝鮮人はアゼルバイジャン人より多い(表7参照)が、1996年刊の人口年鑑ではこれら二つの民族のデータが欠けている。

(出所) Republic of Kazakhstan, 1996a: 56-58 より筆者作成。

table9出生・死亡・自然増加率

(表9)出生率・死亡率・自然増加率(1000人あたりの出生・死亡・自然増加数)

		1940年	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年
出生率	都市	39.9	31.6	21.3	19.7	21.0	22.1	22.9	18.8	17.8	16.7	15.1	14.8
	農村	41.2	41.7	31.9	27.1	27.9	25.9	27.9	25.6	25.3	24.4	23.3	22.7
	全体	40.8	37.2	26.9	23.4	24.3	23.9	25.1	21.7	21.0	19.9	18.6	18.2
死亡率	都市		7.1	6.3	6.5	7.3	8.1	8.0	7.9	8.3	8.5	9.7	10.3
	農村		6.1	5.6	5.5	7.1	7.8	8.0	7.3	7.6	7.6	8.5	8.6
	全体	21.4	6.6	5.9	6.0	7.2	8.0	8.0	7.7	8.0	8.1	9.2	9.5
自然増加率	都市		24.5	15.0	13.2	13.7	14.0	14.9	10.9	9.5	8.2	5.4	4.5
	農村		35.6	26.3	21.6	20.8	18.1	19.9	18.3	17.7	16.8	14.8	14.1
	全体	19.4	30.6	21.0	17.4	17.1	15.9	17.1	14.0	13.0	11.8	9.4	8.7

(出所) Kazakh SSR, 1979: 6 (1940年のデータ); USSR, 1988: 133 (1960-75年); Republic of Kazakhstan, 1996a: 74(1980年以降).

okatable10.xls

(表10) 民族別出生・死亡・自然増加率

	出生率			死亡率			自然増加率		
	1990年	1993年	1994年	1990年	1993年	1994年	1990年	1993年	1994年
カザフ人	30.1	27.1	25.9	6.3	7.1	7.1	23.8	19.9	18.8
ロシア人	14.5	10.5	10.1	8.8	11.1	11.8	5.6	-0.5	-1.6
ウクライナ人	16.1	11.8	10.9	11.6	14.3	14.8	4.5	-2.5	-3.9
ドイツ人	15.5	12.6	13.1	7.7	9.8	10.3	7.8	2.7	2.8
ウズベク人	31.0	30.8	30.8	5.1	5.9	5.6	25.9	24.9	25.2
タタール人	17.7	11.8	11.2	8.4	10.6	11.2	9.3	1.2	0.0
ベラルーシ人	16.7	11.8	10.7	9.1	11.9	12.5	7.7	-0.1	-1.9
アゼルバイジャン人	34.5	24.4	22.8	5.1	5.7	5.6	29.3	18.7	17.2
その他・不明	21.8	16.9	16.3	7.9	9.2	9.7	13.9	7.6	6.5
全体	21.9	18.7	18.2	7.7	9.2	9.5	14.1	9.5	8.6

(出所) Republic of Kazakhstan, 1996a: 56, 85-86 より筆者作成。

(表11) 流入・流出者数

(単位千人)

	①自然増	②全体増	②-①
1960	311.1	481.1	170.0
1961	313.5	487.9	174.4
1962	302.3	468.1	165.8
1963	289.4	257.3	-32.1
1964	268.1	322.4	54.3
1965	254.3	275.8	21.5
1966	247.5	276.1	28.6
1967	238.6	264.4	25.8
1968	231.6	211.7	-19.9
1969	222.0	199.9	-22.1
1970	240.6	211.4	-29.2
1971	237.5	219.0	-18.5
1972	233.4	206.5	-26.9
1973	230.8	210.5	-20.3
1974	244.7	216.3	-28.4
1975	253.3	146.3	-107.0
1976	260.2	139.8	-120.4
1977	257.1	151.9	-105.2
1978	258.8	173.6	-85.2
1979	240.7	157.0	-83.7
1980	236.2	173.5	-62.7
1981	246.3	181.2	-65.1
1982	252.5	175.0	-77.5
1983	253.8	184.4	-69.4
1984	268.2	174.4	-93.8
1985	268.7	176.1	-92.6
1986	290.1	207.8	-82.3
1987	292.8	209.7	-83.1
1988	278.8	195.0	-83.8
1989	255.0	170.0	-85.0
1990	236.0	101.0	-135.0
1991	215.0	105.0	-110.0
1992	200.0	100.0	-100.0

	①流入	②流出	①-②
1991	206	255	-49
1992	190	369	-179
1993	111	333	-222
1994	70	481	-411
1995	71.1	309.6	-238.5
1996	53.9	229.4	-175.5

(出所) International Organization for Migration, 1997: 56.  
 なおこのデータは *Statistical Bulletin*, 1, 1997: 12-15による。

(注) 人口全体の増加数から自然増を引き、移民の数を推計したもの。  
 (出所) Tatimov, 1993: 140. なおTatimovは出所を示していない。